

最新の補聴援助機器「オーラキャスト」 試聴・展示・説明会の開催

野田市中途失聴者・難聴者の集い「みみづくの会」

開催日と現地説明会の場所

①令和8年 11月 14日（土）10時～15時

我孫子市けやきプラザ 2F(JR.常磐線 我孫子駅前)

第20回 千葉県福祉機器展 機器展示ブース

「見て・触れて・試して・学べる」暮らしに役立つ最新機器

「みみづくの会」展示場

②令和8年 11月 21日（土）10時～14時

～のだのWA!フェスタ～市民活動2026～

野田ガスホール/ロビー[みみづくの会]展示場

各種補聴援助機器の実演、試聴、聴こえの相談

新製品 集団補聴援助システム オーラキャストの
実演・受信機の貸出と試聴

既存品 ヒアリンググループの受信機の貸出・試聴
その他 各種の補聴援助機器の展示・説明

参加申込みは不要です。開催時間の途中からでも参加・退出は自由です。裸耳でも、補聴器装用者でも、更なる聞こえを試して下さい。

特に、加齢性難聴者の聞こえをサポートする難聴者用スピーカーも準備します。聞こえ難い人でも、補聴器を利用している人でも気兼ねなく自由にお話し合いが出来るように工夫します。参加者同士の親睦と情報交換が図れることを目的にしています。

話し手が見える位置に着席するだけで、難聴者用スピーカーからの音声は補聴器や集音器を利用していない人でも聴き易くなります。

また補聴援助機器のオーラキャストの展示に関しては、ソナール社のご協力により、受信機の貸出・説明があります。また、ヒアリンググループ受信機の貸し出もしますので状況に応じて、選択・利用すれば、各自にフィットした聴き取りが出来ます。既にご自分の補聴器に「Tコイルスイッチ」が付いている場合は、スイッチの切り替えで、ヒアリンググループからの音声をハッキリと聞き取ることが出来ます。

是非、最新式の補聴援助システムの「オーラキャスト」の受信機の貸出を受けて、聞き比べをして、その聴こえ具合を実感して下さい。

高齢者 & 難聴者の集い ちょっと立ち寄りおしゃべりサロン

みみづくの会

活動場所 春日町第三自治会集会所
七光台駅から徒歩で5～6分
「まめバス」五木新町ふれあい公園前
(公園内に併設)

ホームページ mimi-comm.com

連絡先：野田市春日町38-12 吉岡方

TEL：04-7129-7303

FAX：04-7127-8575 (FAX専用)

E-mail: hanbeiyoshi@jcom.zaq.ne.jp

※ 活動予定日と場所と時間を参照ください



ご存知ですか？「難聴が認知症の最大要因です」

認知症予防＝難聴対策「国の新プラン」

- ・高齢者の 約4人に1人が認知症、またはその予備軍。
高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
- ・2012(平成24)年 462万人(約7人に1人)
⇒2025(令和7)年 約 700万人(約5人に1人)
- ・認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、
認知症の人が認知症と共に、よりよく生きていくことが
出来るような環境整備が必要。
- ・障害調整生命年という指標による分析によれば、
わが国の疾患群では、精神神経疾患のインパクトは
悪性腫瘍や心血管病を抜いて 1 位になっています。



新オレンジプラン

認知症施策推進総合戦略

- ✓高齢者の約4人に1人が認知症またはその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
- ✓2012(平成24)年 462万人(約7人に1人) ⇒ 2025(平成37)年 約700万人(約5人に1人)
- ✓認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。
- ✓障害調整生命年 (DALY) という指標による分析によれば、我が国の疾患群では精神神経疾患のインパクトは悪性腫瘍や心血管病を抜いて1位。

危険因子：加齢、遺伝、高血圧、糖尿病、頭部外傷、喫煙、難聴
防衛因子：運動、食事、余暇活動、社会的参加、認知訓練、活発な精神活動 (コミュニケーションツールとしての「補聴器」)



会話・聴こえを確認しながら、カラオケを楽しみ交流



難聴者用スピーカー と カラオケ機器設置 ヒアリングループシステムの利用

ヒアリングループシステムは、野田ガスホールの客席床面や野田市社会福祉協議会、南コミセンや北コミセンに備付けの磁気ループがあります。利用は施設管理者に問合せ下さい。
専用受信機を借り出して、付属のイヤホンで試聴するか、受信可能なTコイル付補聴器なら、付属のボタンを「M」から「T」に切り替えて、ループ敷設内に着席して、聞いて下さい。受信機は立てて持ち、ダイヤルで音量を調節して下さい。



補聴援助機器の使い方や文字通訳の利用方法

HP: mimi-comm.com

補聴援助機器と要約筆記の利用状況について



「みみづくの会」のHPスケジュール表に月々の例会予定が表記されています。
参加は自由ですので、気楽にお立ち寄りください。お待ちしております。

②



難聴の程度に応じた配慮を!

◆ 難聴・聞こえの工夫

先ず、市内の耳鼻咽喉科で聴力検査を受けましょう!
野田市での聴覚障害者手帳保持者は、約400名です。

伝音難聴

鼓膜や耳小骨など、主に中耳の病気で音を伝えにくくなって起こったものです。
音が、耳にふたをしたように聞こえます。

感音難聴

内耳の感覚細胞、聞こえの神経（聴神経）、脳の中樞のどこかが原因で起こったものです。
単に聞こえにくいだけでなく、様々な歪みを生じている場合が多く、言葉の聞き違いがあります。

混合難聴

伝音難聴と感音難聴が同時に起こっているタイプです。中耳の伝音部分は補聴器で補えますが、感音部分は個人差が出ます。

難聴の程度	平均聴力レベル	聴こえの程度
正常	25dB未満	
軽度難聴	25～40dB未満	小さな声や騒音下での会話の聞き間違いや聞き取り困難を自覚する。会議などでの聞き取り改善目的では、補聴器の適応となる事もある。
中等度難聴	40～70db未満	普通の大きさの声の会話の聞き違いや聞き取り困難を自覚する。補聴器の良い適応となる。
高度難聴	70～90db未満	非常に大きい声が補聴器を用いないと会話が聞こえない。しかし、聞こえても聞き取りには限界がある。
重度難聴	90dB以上	補聴器でも聴き取れないことが多い。人工内耳の適応

※ 日本聴覚医学会「難聴対策委員会報告・難聴の程度分類」身体障害者障害程度等級表 2014年より

身体障害者障害程度等級表（聴覚障害のみ抜萃）

等級	聴覚障害
2級	両耳の聴力レベルがそれぞれ 100dB 以上のもの
3級	両耳の聴力レベルがそれぞれ 90dB 以上のもの
4級	① 両耳の聴力レベルがそれぞれ 80dB 以上のもの ② 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50%以下のもの
6級	① 両耳の聴力レベルがそれぞれ 70dB 以上のもの ② 一側耳の聴力レベルが 90dB 以上、他側耳の聴力レベルが 50 dB 以上

難聴の程度とその対応方法について

軽度 集音器、補聴器、マイク＆スピーカー

中等度 補聴器、難聴者用スピーカー、イヤホン、文字表示、筆談、ノートテイク
ヒアリンググループや難聴者用スピーカー等の補聴援助機器の利用

高度 高度難聴用補聴器、人工内耳、手話、筆談、要約筆記、補聴援助機器を利用

※ 各種専用の受信機や適用するイヤホンが必要になる

- ・ 会話は1m以内、周囲の環境に左右される（雑音、早口、複数人との会話は避ける）
- ・ 難聴者自身が対応の配慮・協力を仰ぐ。出来るだけ自分に合った配慮をお願いする。
- ・ 対面での会話は「ゆっくり・はっきり・近寄って顔を見合わせ口元を見せて」 ③

新しい聴覚支援システム「オーラキャスト」

「AURACAST(オーラキャスト)」は Bluetooth の新しい技術で、今後補聴器・人工内耳・スマートフォンなど様々なデバイスに繋がります。

現在の Bluetooth は主に 1 対 1(個人のスマートフォンと個人のイヤホンなど)の通信技術ですが、「AURACAST」は1対多数と通信ができます。

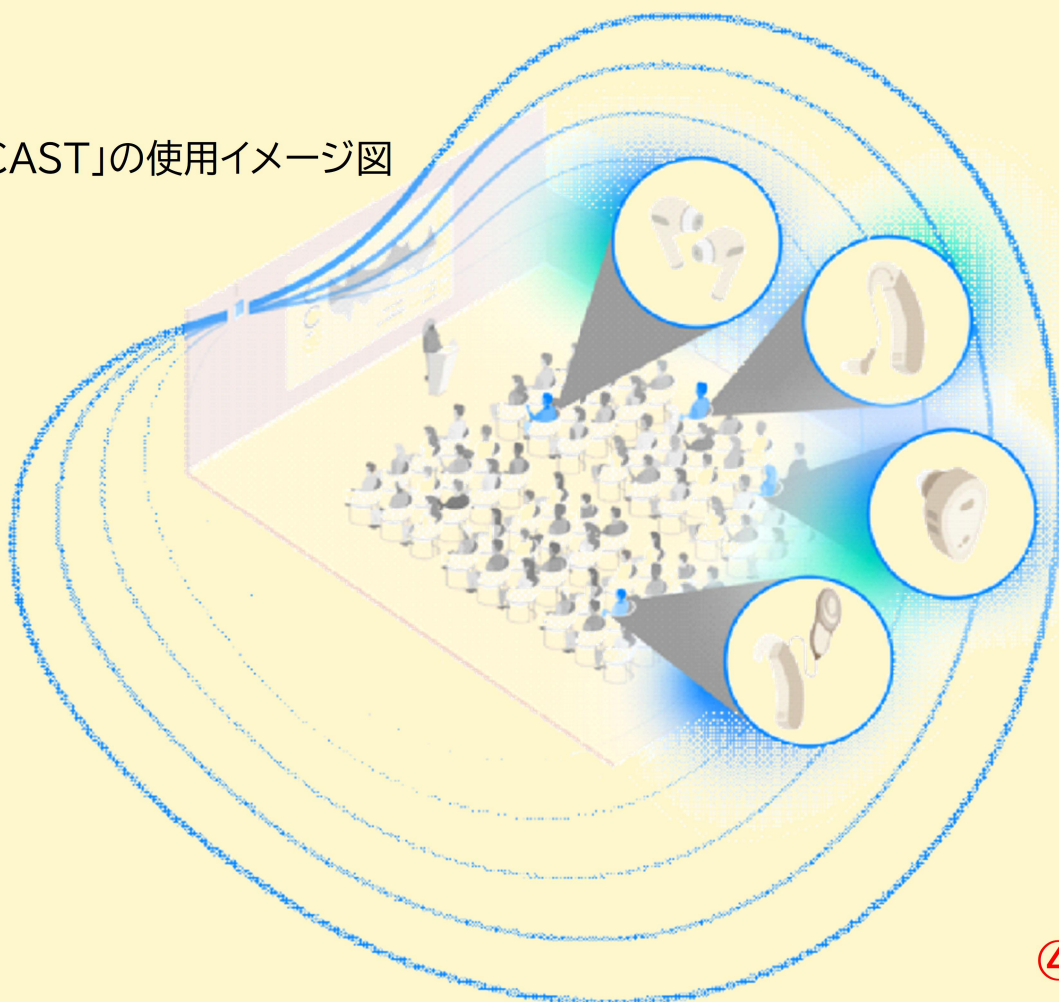
また、通信の伝達距離も 50m 程度可能なため、ホールやアリーナなどの広い施設でも容易に設置が可能です。

現在、補聴器メーカー・人工内耳メーカーにて「AURACAST」を受信できる製品開発が進められており、ヒアリンググループの「T」モード同様、今後は補聴器や人工内耳を「AURACAST」モードへ切替えることにより AURACAST 送信機からの音声を聞くことが可能になります。

「AURACAST」につきまして下記 URL をご参照ください

<https://www.bluetooth.com/ja-jp/auracast/assistive-listening/>

「AURACAST」の使用イメージ図





「みみづくの会」

地域の高齢者の集いの場として 「ちょっと立ち寄り おしゃべりサロン」

活動場所 春日町第三自治会集会所
七光台駅から徒歩で5～6分
「まめバス」五木新町ふれあい公園前
(公園内に併設)

今年度内の開催予定日は

令和 8年 9月 10日 (木) 午前10:00～12:00
8年10月 8日 (木) 午前10:00～12:00
8年11月 12日 (木) 午前10:00～12:00
8年12月 10日 (木) 午前10:00～12:00

※ この後も、毎月、第2木曜日 午前中の開催予定

参加申込みは不要です。開催時間の途中からでも参加は自由。特に、加齢性難聴者の聞こえをサポートする **難聴者用スピーカー**と **ヒアリンググループ**と**音声文字通訳** (PCと大型ディスプレイ) を準備しますので、聞こえ難い人でも、補聴器を利用している人でも、気兼ねなく、お話が弾むように工夫します。参加者同士のホットな会話が弾み、情報交換・親睦・交流を図かり、認知症の予防を目的にしています。

出来るだけ、お互いに顔を見合わせて、話し手の口元が見えるように着席します。補聴器や集音機を利用していない人でも聴き取り易くなります。また、ヒアリンググループ受信機の貸し出しをしますので利用すれば、話が聴き取り易くなります。ご自分の補聴器に「Tコイルスイッチ」が付いている場合は、「T」に切り替えることで、ヒアリンググループからの音声をハッキリと聞き取ることが出来ます。補聴器を持っていない人でも、会話が聞き取りやすくなり、お互いに意思疎通がし易くなります。マイクを持ってお話し下さるようにご協力をお願いします。

更に、気楽にお互いの親睦が図れるようにと、カラオケ機器をセットして、参加者が気楽に和やかな雰囲気になるように工夫します。難聴が認知症の最大リスクなので、その予防対策と健康維持のために、「耳の体操」と「体調維持のリハビリ体操」(えだ豆体操)も体験していただきます。どうか遠慮無く見学にでもお越し下さい。

補聴器や集音機を持っていない人でも受信機の貸出をします。